



ルポルタージュ・乳幼児期からの健康づくりプログラム

## 日々の遊びや運動で体力づくりを行い、 町の自然や歴史の素晴らしさを発見する活動で、 豊かな感性を育む。



### おのまち認定こども園

所在地：福島県田村郡小野町

形態：公私連携幼保連携型認定こども園

定員：135名（0歳から5歳、2025年6月末時点）

開園：2022年4月

福島県小野町は阿武隈高地を流れる夏井川の流域にある緑豊かな町だ。この町にある（おのまち認定こども園）は、小野町が設置する4つの公立幼稚園・保育園を閉園・統合して民営化する政策に伴い、2022年4月に社会福祉法人啓誠福祉会が設置する公私連携幼保連携型認定こども園として開園した。公私連携は、園を設置・運営する民間法人に対して、行政が支援するとともに、運営について指導監督する制度である。

「移行期間である最初の3年間は町と法人の職員が一緒に保育を行いました。今年4月から基本的には法人の職員だけで運営します。100人を超える子どもたちが安心・安全に過ごすには、保育の有資格者だけでは足りない。資格を持っていない保育補助者や、会計年度任用職員（非常勤の地方公務員）も雇用しています」と同法人理事長の琴田正彦さん。

同園の広い園庭には、鉄棒や登り棒、砂場、築山の他、丸太で作られたアスレチック遊具、トランポリンなどの遊具が充実している。子どもたちは、多くの保育者に見守られながら、思い思いに



-----  
**【おのまち認定こども園の教育・保育目標】**

心豊かにたくましく生きる子どもの育成

①健康で明るい子ども。②友達と遊べる子ども。③自分で考え行動できる子ども。④心の豊かな子ども。⑤自然に親しみ、ものを大切にしている子ども。

**【おのまち認定こども園が目指す姿】**

一人一人の特性を生かすこども園：①一人一人に応じた保育。②自ら学ぶ力を育む保育。③個々の能力を引き出し伸ばす保育。

心と体の健康を育むこども園：①基本的な生活習慣の確立。②運動遊びの充実。③食育指導。④保健指導。⑤安全教育

人と関わる力を育てるこども園：①友達と協同し学びあう保育。②豊かな言葉や表現力を培う保育。

自然環境に触れ合えるこども園：①飼育栽培活動。②自然体験・山遊び。③季節感あふれる活動の充実。

地域とつながるこども園：①子育て支援の充実。②地域との交流。③小学校との連携を図る

専門性の高い保育が受けられるこども園：①体操教室。②自然・農業体験。③外国語教室。

-----



**アスレチック遊具につくられたボルダリング** ボルダリングは握力、腕力、脚力、背筋力、体幹が鍛えられるだけでなく、「次にどこを掴むか」というように、身体の動きと連動する思考力や想像力も鍛えられる。

身体を動かして遊んでいた。そうした日々の遊びや運動に加えて、同園では3歳から5歳の子どもが「みっちゃんダンス」という体操教室を月に2回、1回30分行っている。「みっちゃんダンス」は、小学校の先生をしていた矢内みちさんが考案した運動で、昔から小野町の幼稚園や小学校で行われてきた。

「みっちゃんダンス」では、ヨガのような運動やリズムカルな運動、バランス感覚を養う運動、体幹を鍛える運動など、さまざまな運動を専用の音楽に合わせて行う。さまざま動きをすることで、日常生活ではあまり使われない身体のいろいろな部位が鍛えられる。

「みっちゃんダンス」は、体力や筋力が鍛えられるのももちろんですが、リズム感を養ったり、姿勢を整えたりできる素晴らしい運動です。小野町は、肥満の子どもの多い地域なんです。園庭での運動遊びや「みっちゃんダンス」をしているおかげで、園の子どもには肥満が少ないんです。いろいろな運動があるので、子どもたちも飽きずに楽しんで行っています。（みっちゃんダンス）は、私たちのほかに、町にあるもう一つの民間の園と、子育て支援活動として町の施設でも行っています。自宅で子育てしている親子にも、施設に行って、ぜひ体験してほしいですね」

また、同園では、小野町にある豊かな自然や歴史の素晴らしさを発見する園外活動にも力を入れている。この活動を「おのまちわくわくドキドキ

「みっちゃんダンス」① 音楽に合わせて、ケンケンパや、一本線の上を歩いたり飛んだりすることで、足の筋力を鍛え、バランス感覚を養う。



「みっちゃんダンス」② 音楽に合わせて、手をあげながら、室内をリズムカルに走り回る。



たんけん」と名づけて、年7回行っている。

「昨年は、〈緑とのふれあいの森公園〉〈こども園の裏山〉〈東堂山満福寺〉〈高柴山〉に行きました。〈緑とのふれあいの森公園〉は、自然の地形や森林を生かした小野町のキャンプ場で、生き物や植物を観察したり、木の実を拾って遊んだりできます。〈東堂山満福寺〉は、平安時代初期に開かれたというお寺です。山の中腹に、500体を超える羅漢像があります。探検後、探検で見つけたキノコやコケ、虫などを図鑑で確認する子どもたちの姿が見られますし、お寺に興味を持つ子どももいます。こうした活動を行うのは、小野町の自然を体験したり、地域の歴史を知ってもらうだけではなく、子どもたちに小野町という郷土に愛着を持ってもらいたいという思いもあります。活動を通して、子どもたちの感性を育み、身体も鍛えられるように、今後も活動を工夫したいです」

園内外のさまざまな活動に力を入れる同園だが、同園の子どもの中には、運動遊びが苦手な子、大型遊具で遊べない子、ひとり遊びが好きな子、発達障がいの子もいる。そうした子どもたちの「居



**裏山の森につくられた遊び場のターザンロープで遊ぶ子ども** 裏山にはターザンロープやスラックライン、ハンモックなど、自然を生かした遊具が設置されている。

**裏山探検** 園の裏にある山を登り、頂上の遊び場で遊んだり、動植物の探索、枝やつるを使った秘密基地づくりなどを行っている。



最後に琴田理事長は、「乳幼児期は、遊びの中で自然と身体を鍛えていくことが大事だと思っています。子どもたちが興味関心を抱いたことに主体的に取り組める環境を整えたいと思います」と語る。

な体力が身に付き、バランス感覚を養うことができる。



場所」となるFRP（強化プラスチック）製遊具を今回の助成で園庭に設置した。遊具は、見た目が動物で、子どもにも親しみやすい。1、2歳の子どもであれば、遊具にまたがるだけで、基礎的

**FRP製遊具で遊ぶ子どもたち** 「またがる」という行為が子どもの自己肯定感を高める。また、子ども同士で、順番を譲り合うことで、社会性や協調性が養われる。

## 第一生命財団の子どもの未来を応援する 保育所等助成事業

第一生命財団では2013年度より、待機児童対策の一環として、より多くの子どもたちに、安全・安心な保育環境と、すこやかな心と体を育み、また、豊かな創造力を養う機会が提供されることを目的とした保育所等助成事業をスタートさせた。

具体的には設立後3年以内の保育所・認定こども園等が対象で、二つの助成制度がある（A、B）。

A：保育の質を高めるために必要な什器・備品等を購入するための費用（の一部）を助成する。

→1施設100万円が上限（定員30人未満は上限30万円、定員30人～100人未満は上限70万円、定員100人以上は上限100万円）

B：①地域とのつながりを深める取組み、②保育士等施設職員の専門性向上につながる取組み、

③子どもたちや施設の安全性を高める取組みに必要となる什器・備品等を購入するための費用（の一部）を助成する。→1施設50万円が上限。

2024年度は38施設、総額2,984万円の助成が行われた。



福島県「おのまち認定こども園」にて  
本文56ページ（ルポルタージュ・乳幼  
児期からの健康づくりプログラム）参照